



貴重なお話をしていただきました山脇正俊氏

「NPO法人遠賀川流域住民の会」設立記念講演会を開催しました

「NPO法人遠賀川流域住民の会」を設立、記念講演として、山脇正俊氏（スイス連邦工科大学講師）を迎え、近自然工法による川づくり「近自然工法・川といきる、道といきる、まちといきる」をテーマに、今年四月十六日（水）飯塚市飯塚コミュニティセンターで開催いたしました。

今、地球環境は本来のバランスを大きく崩している

ヨーロッパでは「現在は十二時五分前だ！」と言われているが、これは「破局五分前」という意味です。

「人類の絶望・破局はすでに始まってしまった」という主張です。

日本では危機感が大変希薄ですが、多くの環境調査結果は、我々人類が崖っぷちに立たされていることを示しています。

近自然工学とは、「自然や地球環境と我々の文明とを共存させよう」という考えです。

我々の実現した豊かさを捨てずに、同時に地球環境が長持ちする方法を探そうという訳です。つまり、自然と人がお互いに利益を分け合うという相利共生です。

この具体的手法が「近自然工法」です。川づくりを「近自然河川工法」、道づくりを「近自然

然道路工法」、まちづくりを「近自然都市計画」と呼びます。

川づくり：「近自然河川工法」

安全性：住民が安心して暮らせる。住民の財産・生命を守る。水質：きれいな水、川が自浄力を持つように造る。

ダイナミクス：侵食・堆積・洪水など活力があるのが川。十分な洪水安全性を確保した上で、川本来のダイナミクスをどれだけ実現できるかが課題。

モルフオロジー：ダイナミクスがあると、川は自分で蛇行・早瀬・淵・洲・直壁など、その川本来の形を造っていく。

エコシステム（生態系）：川本来の形ができれば、豊かな動物植物が戻ってくる。

ランドシャフト（景観・風景・風土）：五感と心で感じるもの総体がランドシャフト。共有財産である。

親水性：散歩したり遊んだり冒険できる。親しみのある川。

コスト：安く環境負荷が少ない

「近自然河川工法」では、安全性や経済性をも含めたこれらすべてを考慮します。しかも、川の場合、何が欠けているか、何が重要か、何ができるかを考えます。

人工の川なのに、個性的な自然の川に近くなります。



◆近自然化後16年を経たスイス・チューリッヒ州ネフパッハ川。1983年施工（資料：クリスティアン・ゲルディー氏）
いわゆる「春の小川」が人工的にしかも安く実現できる。その場にある材料を再利用し、できあがりの形は川の流れや自然の植物の成長に任せたため、ほとんどお金がかかっていない。

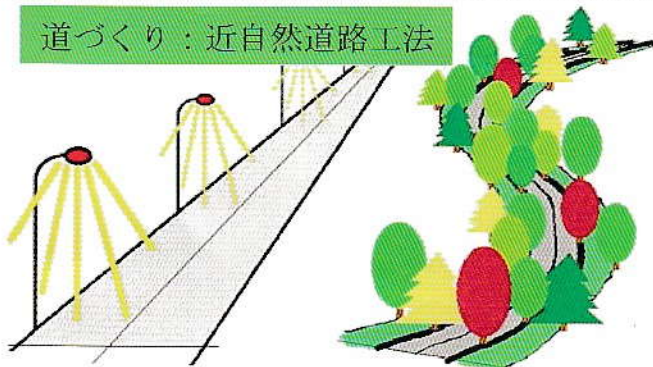


◆従来工法による改修を受けた、固く狭く真直ぐな川（資料：桜井善雄氏）
日本中いたる所同じような川ができた。（川だけではなく村も個性を失った...）子供のころ遊んだあのせせらぎはどこへ消えてしまったのか？

もつとも重要なことは「石油など化石・資源エネルギーからの脱皮と、太陽など再生・循環エネルギーへの転換」である。環境負荷の大きな、しかも地球上有限なエネルギーで豊かさを実現している限り絶対に長続きはしない。

それに対し、環境負荷のほとんどない無限のエネルギーで豊かさを維持することができれば、これは長続きすると「言える」。

道づくり：近自然道路工法



（右）近自然道路工法による道

狭く、蛇行し、アップダウンし、木々で見通しが悪く、夜は暗い。スピードを出しにくい設計だ。

こうすると、事故が減り、排ガスなど環境負荷が減り、時速60kmでコンスタントに流すことにより多くの車を通すことができ、運転が面白く眠くならない。

（左）従来工法による道

広く、真直ぐで、平坦で、見通しが良く、夜も明るい。スピードを簡単に出しやすい設計だ。このような道路では、交通事故が多く、排ガスなど環境負荷が大きく、弱者への配慮がなくしかも車間距離が開くため多くの車を通すことができない。



生活にながなが、水を育んでくれる山は今危れています。日本を取り巻く自然環境と生活様式があまりにも急速に変わつていき、自然の営みが壊れつつあります。筑豊の生活と文化を支える「遠賀川」を守るために、源流の地である嘉穂町で森づくりを推進しています。50年・100年後の地球と水、子どもたちのために今、できることを行動しましょう。

日時:平成15年8月24日(日)8:30~
集合場所:大隈小学校グラウンド

参加費:無料(交流会参加者は1,000円)
持ってくるもの:弁当、水筒、軍手、タオル、長袖シャツ、鎌をお持ちの方は持参下さい。

問い合わせ・申込先
遠賀川源流の森づくり推進会議事務局
(嘉穂町役場 農林整備課電話 0948-57-1212)

I LOVE 遠賀川

日程 10月9日(第二日曜日)
会場 飯塚市
主催 I LOVE 遠賀川 実行委員会

筑豊盆地を囲む「父なるみどりの山々」、太古の時代から流れつづける「母なる遠賀川」、この自然の恵みの中で今日も「遠賀川」の水が私たちの体の中を流れています。生命を営む血液となって・・・「遠賀川」は私たちの命そのものです。

この「遠賀川」が、今の私たちにあまりにも近すぎて、見えなくなっているのではないのでしょうか。

美しく豊かな自然が、永遠の資源であり、大切な財産であることを!

いま「母なる遠賀川」に、あなたのやさしさがほしいのです。

I LOVE 遠賀川・・・

愛するふるさとの川を持つ幸せ、私たち市民の一人ひとりがここに集って、手をとりあつて行動を起こしましょう。



ゴミがまだまだいっぱい集ります



実行委員長 曾根 靖史先生も駆けつけていただき、清掃活動を。

2003年、子ども達と共に皆で遠賀川をきれいにしましょう。

会員団体の今秋の取り組みです

日本野鳥の会

筑豊支部

定例写真展

日時 8月1日~31日(開館日のみ)
場所 鞍手町 鞍手町歴史民族資料館
テーマ 「渡り鳥」写真約40点ほか

定例探鳥会 どなたでも参加できます

- 9月14日 英彦山 集合 JR彦山駅前
午前9時より
- 9月21日 六ヶ岳・剣岳 集合 現地
午前9時より タカの渡り
- 10月12日 赤池町井土 集合 英彦山河川敷
午前9時より ヒヨドリ・カモの渡り
- 10月19日 英彦山 集合 JR彦山駅前
午前9時
- 11月 9日 豊前海岸 集合 椎田町網敷天満
午前9時 シギドリ・カモの渡り
- 11月16日 英彦山 集合 JR彦山駅前
午前9時より 紅葉



探鳥会の様子(一般向けの探鳥会を春と秋に開催しています)

近畿大学依田浩敏研究室

依田教授のもと、4年生と3年生のゼミ生が『環境に配慮したたものづくり・まちづくり』を目指して調査研究、環境保全ボランティア活動を行っています。

早稲田大学理工学総合研究センターと共同で、2000名の流域住民を対象にして、CVM(仮想評価)を用いた『遠賀川の水質に関する市民意識調査』を実施しました。

結果を公表できるように、現在、解析中です。

宿場木屋瀬街づくりの会

近代化の中で町は過疎化と高齢化が進み、町並みは破壊され、地域の文化や伝統が急速に崩壊し始めた。このような状況の中で、地域の将来に危機感を持った私たちは、この地域の特性である「歴史を活かした文化の香る街づくり」という基本理念をもとに今日まで様々なプロジェクトを企画実行してきました。



みんなで踊ろう 宿場をどり 筑前木屋瀬宿場祭り

日程 11月3日(毎年恒例)

場所 旧長崎街道 木屋瀬宿を中心として

主催 筑前木屋瀬宿場まつり実行委員会

平成13年までは、宿場木屋瀬街づくりの会が主催いたしていましたが、祭りが年々盛大になり、平成14年より、地域全体の組織として取り組むようになり、当団体も組織の一員として参加するようになりました。上記の写真は祭りの一場面です。

田川未来塾

平成3年7月、私たちの心から愛するふるさと田川の「夢と活力ある快適都市、田川・・・未来のまちづくり」を志す若者たちのネットワークを強化し、ねばっくく共に学び、考え、提案し、実践することを目的として発足。

環境・情報・文化をテーマに講習会や視察や環境改善活動等を行ない、実践活動に重きを置いた、まちづくり・情報リテラシー開発、環境保全リーダー育成などに取り組んでいます。

主な事業として、神幸祭ポイ捨てよそうキャンペーン、花いっぱい運動、英国グラウンドワーク実践交流会、小学校等の総合学習など子どもを中心とした「環境教育支援活動」、情報リテラシー開発講座「ホームページ作成講習会」開催、「遠賀川流域住民の会」運営支援などを展開しています。

田川未来塾ホームページ

<http://www.chikuhou.or.jp/t-mirai/>



ポイ捨てよそう!



英国での植樹

I LOVE 遠賀川 in 田川「野音河遊」

日程 10月19日(日)

会場 ほんだごうら 音楽イベント&ゴミ拾い

中間市「なかま三世代ふれあいの会」



中間市 遠賀川にこいのぼりが舞う。準備も大掛かり。

この会は、中間市の市民憲章・高齢者憲章を基調として、人に、自然や環境にやさしい、心豊かな明るい青少年の健全育成と、安全で住みよい、ふるさとの街づくりを目的に、平成十一年六月六日(設立)に生まれたボランティア団体です。

ネーミングの「なかま三世代ふれあいの会」は、会員が世代を超えて健やかな人と人づくり、和やかな潤いのある社会づくりに、相互の信頼と協力をもとに、調和の取れた三世代ふれあいの場づくりという意味です。

会員通信

主な行事

- 一、なかま遠賀川鯉のぼり祭
- 二、ふれあいこどもまつり
- ・ 凧づくり教室
- ・ 竹とんぼ・竹笛づくり教室
- ・ グランドゴルフ・輪投げ・ビンゴゲームなど
- ・ バザーコーナー
- 三、諸団体の行事への参画協賛
- 四、清掃ボランティア実施など



清掃ボランティア活動・自転車が捨てられ、片づけを行っている会員、ゴミがいっぱい。

問い合わせ先

なかま三世代ふれあいの会
会長 植木益夫
〒809-0034
中間市中間4丁目13-20
FAX・TEL
093-245-8432

遠賀川の生きものたち

今月の野鳥



鴟または百舌
(モス)

初鴟や象の通れる宿場町

節郎

留鳥、初秋には原野・畑・または人家近くに一羽ですみ、樹木の頂に止まって尾を上下に振って、キーツ キ キ キーツ、キイキイキイなどと鳴く。

昆虫・蛙・とかげ・鼠等を捕食し、秋にはそれらを木々のとげに刺し「もずの早糞」を作る。黒いサングラスをかけたような顔は、いかにも猛禽といった風情がある。

メダカ
ダツ目
メダカ科



国では絶滅危惧Ⅱ類
県では準絶滅危惧

希少種。全国的には、カダヤシとの競合、移植固体による遺伝子のかく乱、水路の自然度低下等で減少。本市における個体数は比較的多い。

「私たちの飯塚…自然再発見ガイドブック」より転載

第9回 I LOVE 遠賀川流域住民交流会 in 直方 開催のご案内

日程 9月20日(土)

12:00~18:00

会場 直方市 直方市中央公民館

テーマ 川と遊ぶ・・・

すばらしい遠賀川にするために

講師 幸野 敏治氏

幸野 敏治氏プロフィール
大分県大野郡犬飼町在住
特定非営利活動法人河童倶楽部理事
事務局長
大野川流域ネットワークワーキング事務局
大野川流域懇談会事務局長
九州流域作りフォーラム/
九州のぼせもん倶楽部

主催 NPO法人遠賀川流域住民の会
I LOVE 遠賀川 in 直方

問い合わせは
事務局まで
0947-45-0594

遠賀川カヌー一駅伝大会開催

日程 8月17日(日)
会場 飯塚市川島「国土交通省遠賀川」
河川事務所 飯塚出張所前
主催 NPO法人遠賀川流域住民の会
主管 飯塚市カヌー協会
共催 飯塚市体育協会

スケジュール

10:00 開会式
10:30 スタート
12:30 閉会式

中止

開催要項

- ・種目 チーム5人による駅伝方式(カヤックカヌー)
チーム編成は、小学生及び女子を必ず入れる
- ・競技方法 ①全艇一斉スタートによる漕ぎ乗り継ぎ方式
②全て1周約500mの周回コースで行う
- ・参加資格 カヌー教室等受講終了者及びカヌー漕法修得者
- ・使用艇 白艇及び貸与艇
レーシング艇を除くカヌー(ラダー付きは不可)
- ・審判 ライフジャケット、浮力体等は各自で準備
- ・表彰 日本カヌー連盟競技規則による審判
3位まで賞状を授与する。
- ・参加料 1チーム1,000円(既納の参加料は返納しない)
- ・申込方法 所定の申込用紙で〆切日までに申し込みいただく
- ・申込先 〒820-0712
福岡県嘉穂郡筑穂町大字大分1285-81
皆川 正吉宛
電話 0948-72-2099
- ・申込〆切日 8月10日(日)必着
- ・競技終了後、クリーンリバーの一環として河川清掃を実施
- ・清掃後、豚汁・おにぎりなどを準備

2003・ゴミクリーン作戦 in 芦屋



「下流のゴミはみんなの責任」と昨年9月、上流から下流の芦屋町に約250人の人々が集まり、清掃活動を行いました。

今年度もさらに大きな輪を広げ、呼びかけます。芦屋にあつまらしましょう！(写真は昨年のゴミクリーン作戦の様子です)

日程 9月28日(日)

開催地 芦屋町

主催 NPO法人遠賀川流域住民の会
芦屋の自然を守る会
マイクロバスを準備する予定です

NPO法人 遠賀川流域住民の会 事務局だより

遠賀川流域通信は[NPO法人遠賀川流域住民の会]の会員団体・及び流域に集う住民の交流の場です。ご意見・ご感想をお願いいたします。

※NPO法人化により、事業の受託ができるようになりました。各団体で、また、本会と合同で実施可能な事業がありましたらお寄せ下さい。

事務局 Tel/fax 0947-45-0594 E-mailto:k.uekil@crocus.ocn.ne.jp

ホームページ <http://onga.sabax.jp/>

ごみ分別辞典
～暮らし～



香春町が作成した
ごみ分別辞典